

## 平成 31(2019)年度における施策推進方針(盛岡広域振興局)

施策推進方針	いわて県民計画(2019~2028)の推進に係る重要課題等
<p><b>◆ 目指す姿</b></p> <p>県都を擁する圏域として、産業・人・暮らしの新たなつながりを生み出す連携の深化により求心力を高め、東北の拠点としての機能を担っている地域</p> <p><b>◆ 取組方針</b></p> <p><b>I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域</b></p> <p>圏域内の地域特性や地域資源を生かしながら、医療・福祉・子育てなど安全・安心な生活を支える取組や、若者や女性などの参画による地域づくり、住民サービスを支える社会基盤の整備などを進めます</p> <p><b>II IT 産業などの集積や豊富な地域資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域</b></p> <p>産業の特性や地域資源を生かし、産学官金連携によるイノベーションの創出や観光・食・スポーツを連携させた交流の促進、持続可能な農林業の振興を図るとともに、岩手県で育った人材が地元で働き、定着することができる取組などを進めます</p> <p><b>◆ 施策推進の基本的な考え方</b></p> <p>1 第1期アクションプラン 地域振興プランの着実な推進を図るとともに、東日本大震災津波からの復興を牽引し、ふるさと振興に向けた取組を推進する</p> <p>2 管内8市町による「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」の取組をはじめとする広域連携による取組を積極的に展開する</p>	<p>いわて県民計画(2019~2028)地域振興プランの推進に係る重要課題</p> <p><b>I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域</b></p> <p>(1) 生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります ・ 心と体の健康づくり、安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進等</p> <p>(2) 豊かな環境が保全され、自然の恵みを将来にわたって享受できる地域社会をつくります ・ 多様で豊かな環境の保全・保護の推進、地球温暖化防止に向けた取組の推進等</p> <p>(3) 歴史と文化を継承しながら、新たなつながりや活力を感じられる地域づくりを進めます ・ 従来文化の枠を超えた取組の支援や観光分野等への活用等</p> <p>(4) 過去の教訓を踏まえた防災対策を進めます ・ 治水安全度の向上、地震に強い社会資本の整備等</p> <p>(5) 安心・快適な都市環境・生活環境をつくります ・ 高次都市機能の充実、社会資本の計画的な維持管理等</p> <p><b>II IT 産業などの集積や豊富な地域資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域</b></p> <p>(6) 産学官金連携による IT 産業の育成やものづくり産業の振興に取り組みます <b>重要課題 1</b></p> <p>(7) 観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します <b>重要課題 2</b></p> <p>(8) 米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます <b>重要課題 3</b></p> <p>(9) 森林資源の循環利用促進ともうかる林業・木材産業の構築を進めます</p> <p>(10) 地域産業の特性に応じた産業人材の確保・育成とやりがいを持って働くことができる労働環境の整備を進めます</p> <p>(11) 産業経済活動を支える交通ネットワークを整えます</p>

目指す姿

県都を擁する圏域として、産業・人・暮らしの新たなつながりを生み出す連携の深化により求心力を高め、東北の拠点としての機能を担っている地域

I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域

II IT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域

1(1) 保健福祉の充実

1 体の健康づくりの推進

- 生活保護世帯等のニーズに応じた健康情報の提供【新規】
- 各企業のニーズに応じた「健康づくりサポート事業」を提案し、企業の健康経営を支援【拡充】

2 こころの健康づくりの推進

- 子どもを対象とした動物のいのちを大切に取る取組などを通して「いのちの教育」を推進【拡充】
- 児童生徒を対象とした「SOSの出し方」教育、教職員を対象とした「SOSの受け止め方」研修の実施

3 あらゆる世代のみんながいきいきと暮らす地域づくりの推進

- 生きにくさを抱えた人の就労を通じた社会参加(ワーキング・インクルージョン)を支援【新規】
- 岩手医大矢巾町移転に伴う患者受療行動等の変化を踏まえた医療・福祉関係者の連携強化

4 安心して子どもを生み育てられる環境づくりの推進

- 子育てが孤立しないよう、相談・支援を行う取組を推進
- 経済的理由で学習の機会に恵まれない小中高生等を対象とした学習支援等を拡充【拡充】

1(2) 文化スポーツ振興

1 地域の特色や人材等を活用した文化芸術活動の推進

2 従来の文化の枠を超えた取組の支援や観光分野等への活用

- 鉄道×芸術祭 2019 in IGR開催【県北局との連携 新規】

3 生涯スポーツの普及啓発と推進体制の強化

- 総合型地域スポーツクラブによる多種多様なスポーツライフの推進のためのモデル事業を実施

2 環境保全の推進

1 多様で豊かな環境の保全・保護の推進

- 森・里・川を守り育てる活動応援キャラクター「りば〜るくん」を活用した、環境保全等に関する普及活動を実施【拡充】
- 狩猟者の確保・育成等を支援するため、矢巾総合射撃場の整備を支援

2 3Rと廃棄物の適正処理の推進

- 県央ブロックごみ・し尿処理広域化の取組支援と市町の家庭系ごみ減量化の取組を支援

3 地球温暖化防止に向けた取組の推進

- 「北いわて「まるっと！さいえね」推進事業」への参画【県北局と連携 新規】
- 「いわて地球環境にやさしい事業所」の新規認定者掘り起しや認定事業者等への助言指導

4 防災対策の推進

1 河川改修やダム建設による治水安全度の向上

- 木賊川、岩崎川、松川、安比川等の整備推進

2 地震に強い社会資本の整備

3 市町、関係団体、地域住民との連携による防災対応

- 「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」に基づく広域避難等の相互支援体制の仕組みづくりを支援

4 災害関連情報の充実強化

- 水位周知河川の指定
- 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の周知と指定

3 新たな地域づくりの推進

1 広域連携の推進

- 「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」に基づく取組の支援

2 移住定住の促進

- 盛岡広域エリア独自の移住相談会等でPR活動を実施

3 地域コミュニティ活動の活性化

- 「生涯活躍のまち」構想に基づく新たなまちづくりの支援
- 遊休資産などを活用した地域づくり事例の普及啓発

4 多文化共生社会の実現を見据えた取組の推進

- 多文化共生施策の検討及び多文化共生ワークショップの開催【国際交流協会と連携】

5 生活環境・都市環境の整備

1 高次都市機能の充実

- 岩手医大へのアクセス道路の整備推進

2 中心市街地の活性化

- 岩手医大跡地及びバスセンター跡地の活用検討会に参画

3 ユニバーサルデザイン・景観に配慮したまちづくりの推進

4 安全・安心な歩行空間及び自転車通行空間の確保

5 汚水処理施設の計画的な整備

6 社会資本の計画的な維持管理

7 食の安全・安心の推進

〈重要課題1〉6・10 IT・ものづくり産業の振興

1 盛岡広域地域産業活性化基本計画等に基づく企業集積の推進

- 管内企業ガイドブックを調製し管内高校に配架【新規】
- 管内高校を対象とした工場見学等の実施
- 本県と縁のある首都圏のIT関係者、ものづくり関係者を対象とした県人会の開催【県南局と連携】

2 地域産業を支える人材の確保

- 管内企業ガイドブックを調製し管内高校に配架【新規】
- 管内高校を対象とした工場見学等の実施
- 本県と縁のある首都圏のIT関係者、ものづくり関係者を対象とした県人会の開催【県南局と連携】

3 IT・ものづくり産業の幅広い産業分野への参入促進、起業・創業の支援

- プログラミング教育への参入支援【拡充】
- 管内IT企業と北上川流域のものづくり企業とのマッチング支援【産業支援機関等と連携】

〈重要課題2〉7 観光・食産業の振興

【観光振興】

1 魅力ある観光地づくりと観光客受入環境の向上

- ICTを活用した「桜と雪の回廊」等の情報発信
- 効果的な情報発信による誘客の促進
- 国際観光の推進

- 2022年に中国で開催される冬季五輪を見据えた、外国人スキー客に向けた情報発信の強化【新規】
- 多様な文化や習慣(ムスリムなど)を学ぶセミナーの開催による外国人観光客の受入環境の整備

4 スポーツツーリズムの推進

- 管内のスポーツイベントやスポーツアクティビティを素材とした外国人向け旅行商品の造成の働きかけ【新規】

【食産業の振興】

1 食産業・地場産業事業者の経営改善と中核人材の育成

2 商品の高付加価値化及び販路拡大に向けた取組の支援

3 県産食材の地産地消促進と物流の支援

4 海外への販路拡大に取り組む事業者の支援

5 観光等と連携した食産業・地場産業の振興

- 「いわて塩の道」プロジェクトの実施【新規】
- 盛岡地域と沿岸地域の農商工プロジェクトによる「オーシャンレストラン」の開催【三陸防災復興P関連 新規】

〈重要課題3〉8・9農林業の振興

【農業の振興】

1 次世代の地域農業を担う経営体の育成

- 地域農業マスタープラン見直し・実践重点モデル地区の育成と波及
- 企業的経営体の育成

2 生産性・市場性の高い産地づくり

- 「銀河のしずく」の高品質安定生産の推進と販売促進活動によるブランド力向上支援
- スマート農業技術の導入等による生産性向上支援【新規】

- 繁殖・育成センターの整備等による畜産経営体の規模拡大支援
- ほ場整備等による生産性向上や農地の集積・集約化の促進

3 農村の地域活動の促進

- インバウンド旅行者の受入れ拡大に向けたPR動画の作成【拡充】

【林業の振興】

1 森林資源の循環利用及び担い手の育成・確保

- 森林施業の集約化を促進
- 林福連携などによる新たな労働力の開拓【新規】
- ドローンの活用、空調服等新技術の導入促進【新規】
- 交流人口拡大に向けた管内北部地域に豊富なカラマツ林の黄葉等の魅力発信

2 地域材の利用促進

- 地域材活用事例を取りまとめたハンドブックの作成【新規】
- 商店街における店舗の木質化を支援【新規】

3 原木しいたけ産地の再生

- 原木コネクターへの原木増産助成等による原木の安定確保
- 台湾物産展への出展【拡充】

11 交通ネットワークの形成

1 物流・交通ネットワークの整備(国道4号盛岡南道路、国道281号、国道282号)

2 沿岸地域の復興・振興を支える道路の整備(国道106号、国道281号)

3 医療機関への救急搬送ルートの整備(国道106号、国道281号、一般県道大ケ生徳田線「徳田橋」)

## 平成 31(2019)年度における重要課題(盛岡広域振興局)

項目	現状と課題	対応の方向性及び具体的取組内容
<b>Ⅱ IT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域</b>		
<b>ア 産学官金連携によるIT産業の育成やものづくり産業の振興に取り組みます</b>	<p>&lt;現状&gt;</p> <p>1 第4次産業革命の進展により、製造現場におけるIoT化が進んでいる。 盛岡広域には、全県の6割に当たる情報処理関連産業が集積するほか、盛岡市産学官連携研究センター(コラボMIU)や、滝沢市IPUイノベーションセンターなど産業立地基盤が充実している。 ヘルスケア産業、医療福祉機器関連産業の集積を目指し、盛岡市道明地区に工業用地の整備が進められている。</p> <p>2 新卒人材の確保や中堅人材のU・Iターン支援をしているが、依然として人材確保が難しい状況である。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>1 IT企業の新分野参入と第4次産業革命技術の導入促進</p> <p>(1) 平成28年における全県のソフトウェア業年間売上高136億円のうち、受注ソフトウェア開発が104億円を占めていることから、<b>自社開発型企業を育成していくことが必要</b></p> <p>(2) 管内に集積するIT産業と北上川流域のものづくり産業の企業間連携、産学官連携等の多様で広域的な連携が求められているほか、新商品の開発や生産性の向上につながる<b>第4次産業革命技術の導入を進めていくことが必要</b></p> <p>2 産業人材の確保 市町や関係機関などと連携して地域産業を支える人材の確保・育成を支援していくことが必要</p>	<p>1 管内IT企業の新分野参入支援と産業振興を支える体制整備</p> <p>(1) 教育現場のニーズに合ったプログラミング教育教材の開発のためのワークショップ※開催、企業による教材の試作開発を支援するとともにモデル校での授業を実施 (紫波町立古舘小学校、科目：総合、算数、理科 6月、7月、12月予定) <b>拡充</b> ※ワークショップメンバー：IT企業3名、教育機関3名、県立大学教員1名、振興局3名</p> <p>(2) 第4次産業革命技術の導入促進による新たな製品やサービスの創出支援のため、IT連携コーディネーターによる企業訪問等を通じた管内IT企業と北上川流域のものづくり企業との<b>マッチング</b>を実施 (盛岡、県南広域を中心としたものづくり企業(地域未来牽引企業等)に対する管内IT企業の技術シーズや製品開発実績の紹介等)【<b>県南局との連携・北上川バレープロジェクト関連</b>】 <b>拡充</b></p> <p>2 産業人材確保対策</p> <p>(1) 大学生を対象としたIT関連企業の交流研修会(「いわて情報産業就職フォーラム」、3月)、学生が地域を志向した就業や定住についての理解を促進するための「キャリアを考える」授業を大学等と連携し実施 予定：岩手大、産業技術短大 など</p> <p>(2) 地元企業の認知度向上のため、<b>企業ガイドブック(管内企業40社)</b>を調製し管内高校34校に配架するほか、ホームページやSNS(Twitter)で就職支援の情報を発信 <b>新規</b></p> <p>(3) 地元企業の認知度向上のため、高校生、専修学校生等を対象とした<b>管内ものづくり企業の工場見学と出前授業</b>を実施【<b>盛岡広域地域産業活性化協議会としての新事業</b>】 <b>新規</b> 予定：盛岡市立高校、盛岡スコーレ高校、葛巻高校 など</p> <p>(4) 中堅人材のネットワークづくりのため、本県に縁のある首都圏のIT・ものづくり関係者の交流会を実施 (1月下旬予定、於 東京都)【<b>県南局との連携</b>】 <b>拡充</b></p>

# 平成 31(2019)年度における重要課題(盛岡広域振興局)

項目	現状と課題	対応の方向性及び具体的取組内容
<b>Ⅱ IT産業などの集積や豊富な地域資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域</b>		
<b>イ 観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します</b>	<p><b>1 観光</b>  <b>&lt;現状&gt;</b>                      (1) 管内の観光客入込数は、平成 27 年の 10,147 千人回をピークに減少し、平成 29 年は 9,504 千人回で前年から横ばい状態である。                      一方、外国人観光客入込数は、国際定期便の開設などにより、平成 30 年は前年比 45.6%増の 170 千人回で過去最高を更新した。                      (2) ラグビーワールドカップ 2019<sup>TM</sup>釜石や東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機とした国内外とのスポーツ交流が活発化している。                      (3) 2022 年に安比高原にハロウィンターナショナルスクールが開校予定である。</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b>                      (1) 盛岡・八幡平エリアの更なる認知度向上と圏域全体へ経済効果を波及させるため、ご当地グルメ、地酒などの食のほか、スポーツアクティビティなどの体験型素材を生かし、新たな旅行商品につなげることが必要                      (2) 外国人観光客の旅行スタイルに対応した情報発信と受け入れ側のコミュニケーション力の向上など受入態勢の整備が必要</p> <p><b>2 食産業</b>  <b>&lt;現状&gt;</b>                      (1) 良質で安全・安心な地元食材を活用した新たな商品開発など 6 次産業化や農商工連携の動きが活発化している。                      (2) 平成 28 年度から台湾物産展を開催し、参加事業者が拡大しているほか、JA の取引が開始している。                      (3) 「ハーベストレストラン」など、事業者による広域で連携した取組みが広がっている。</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b>                      (1) 地域の食産業、工芸関連事業をリードする中核的な人材(事業者)の育成が必要                      (2) 商談会や物産展の開催等を通じた売れる商品づくりや販路の開拓、情報発信力の強化が必要                      (3) 食や工芸の振興による圏域の地域活性化のため、県北や沿岸など他地域との広域連携が必要</p>	<p><b>1 観光</b>                      (1) 魅力ある観光地づくりと観光客受入環境の向上                      ① ICT を活用した桜の見頃情報と雪の回廊の発信                      桜の開花状況をホームページで発信するほか、スタンプラリーでエリア内の観光地施設を巡る「桜と雪の回廊キャンペーン」を実施【秋田県との連携】                      ② 桜と雪の回廊やドラゴンアイに代表されるキラコンテツやグルメ情報をブックとした誘客促進と、写真投稿キャンペーンによる盛岡広域の観光情報の発信                      ③ 酒蔵等を活用したスタンプラリーの実施 <b>拡充</b>                      インバウンド需要の掘り起こしに対応するため、多言語化やキャンペーン期間の見直し等の実施                      (2) 外国人観光客の誘客促進                      ① 台中国際旅行展への出展等による台湾からの誘客促進(5月)                      ② 2022 年に中国で開催される冬季五輪を見据え、いわてウインターリゾート協議会、管内の DMO などと連携し、増加する外国人スキー客に向けた情報発信を強化 <b>新規</b>                      ③ 管内のスポーツイベントやスポーツアクティビティを素材とした外国人向け旅行商品の造成の働きかけ <b>新規</b>                      ④ 外国人観光客のニーズや文化・習慣(ムスリム対応)を学ぶセミナーの開催                      ⑤ 管内に開校予定のインターナショナルスクールや I L C 実現を踏まえた受入態勢の整備や多文化共生への取組を管内市町などと連携し検討</p> <p><b>2 食産業</b>                      (1) 地域の食産業等事業をリードする中核的な人材(事業者)の育成                      ① 異業種交流等による若手事業者の新たなビジネス創出に向けた支援                      ② 食に加え工芸等産地産業を対象にした産業創造アドバイザー等の専門家派遣による商品開発や経営革新計画作成の支援 <b>拡充</b>                      ③ 首都圏シェフの招聘による産地視察や生産者交流の実施                      (2) 販路拡大・情報発信                      ① 地域内商談会(もりおかマチナカ商談会)及び産地見学会の開催【盛岡市との連携】<b>拡充</b>                      ② 県北地域や沿岸地域と盛岡圏域をつなぐ小口物流ルートの開拓 <b>新規</b>                      ③ 台湾「裕毛屋」岩手県物産展(11月)及び「裕毛屋」バイヤーを招聘しての商談会、産地見学会の開催(8月) <b>拡充</b>                      (3) 広域連携による地域活性化                      ① 「いわて塩の道」プロジェクトの実施 <b>新規</b>                      ・「いわて塩の道グルメフェア」として、県北、盛岡地域市町村の産業まつり等のイベントへの出展(物販・塩の道の紹介)や「塩の道」所縁のメニューによるレストランフェアの開催、「短角ヌーボー解禁イベント」などの民間事業者が実施する塩の道関連企画との連携・支援、県立大の地域協働研究「いわて塩の道の歴史・文化伝統の検証」との連携                      ・官民で構成するいわて塩の道プロジェクト連絡会議の設置(5月)                      【県北局との連携・北いわて産業・社会革新ゾーンP 関連】                      ② 沿岸と盛岡圏域事業者の広域連携企画「オーシャンレストラン」開催支援 <b>新規</b>                      ・沿岸地域での野外レストラン開催(10月5日～10月6日)、水産養殖現場等を案内するアクティビティの実施、沿岸食材を活用した盛岡でのレストランフェア企画                      【沿岸局との連携・三プロ関連】</p>

## 平成 31(2019)年度における重要課題(盛岡広域振興局)

項目	現状と課題	対応の方向性及び具体的取組内容
<b>Ⅱ IT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域</b>		
<b>ウ 米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます</b>	<p>&lt;現状&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>当圏域は農業産出額が県全体の約3割を占める農業地域であり、地域経済の活性化には農業の振興が不可欠である。</li> <li>盛岡市を中心とした大消費地でもある強みを生かしながら、さらなる農業の発展を図っていく必要がある。</li> </ol> <p>&lt;課題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「銀河のしずく」のブランド力向上と園芸・畜産産地の中心経営体の一層の規模拡大や経営高度化支援による産地強化が必要</li> <li>当圏域の農地の70%以上を占める中山間地域の維持・活性化に向け、農村づくり活動の促進や今後増加が見込まれるインバウンドの農村への誘導支援が必要</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生産性・市場性の高い産地づくり                     <ol style="list-style-type: none"> <li>【米】「銀河のしずく」の高品質安定生産の推進と販売促進活動によるブランド力の向上支援(6月～12月)</li> <li>【園芸】スマート農業技術の導入等による生産性の向上支援(盛岡地域環境制御技術研究会(仮)を通じた施設園芸への革新的技術の導入、土地利用型野菜の省力化体系の確立支援)(4月～3月) <b>新規</b></li> <li>【畜産】八幡平市繁殖・育成センター<sup>※</sup>の整備等による畜産経営体の規模拡大支援(4月～3月)  <sup>※</sup> 子牛や繁殖雌牛等を集中管理する預託施設。牛を一定期間まとめて施設に預けることで、農家の労力軽減と施設費低減により飼養規模の拡大を図ることができるもの</li> <li>【農村整備】ほ場整備や農地中間管理事業を活用した農地利用集積の推進(6月～12月)</li> </ol> </li> <li>農村の地域活動の促進                     <ol style="list-style-type: none"> <li>「地域ビジョン」の策定及び地域ビジョンに基づく取り組みの支援(4月～12月)</li> <li>農村地域の魅力を伝えるPR動画の作成・活用によるインバウンド旅行客の受入れ促進(5月～3月) <b>拡充</b></li> </ol> </li> </ol>
<b>エ 森林資源の循環利用促進と もうかる林業・木材産業の構築を進めます</b>	<p>&lt;現状&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>当圏域の林業従事者は、高齢化が進み、従事者数も減少傾向にある。</li> <li>当圏域の公共施設等では、地域産材の活用事例が増加しているものの、アカマツや広葉樹の利用は少ない。</li> <li>当圏域の原木しいたけは、原木の価格が高騰しているとともに、生産者の高齢化により生産量が減少している。</li> </ol> <p>&lt;課題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>新たな林業労働力の育成確保が必要</li> <li>地域材利用に向けた意識の醸成(PR等)が必要</li> <li>原木の安定確保や担い手の確保・育成、販路拡大等による販売促進が必要</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>担い手の育成・確保                     <ol style="list-style-type: none"> <li>林福連携による、障がい者や生活困窮者の林業への就業に向けた関係機関向け情報誌の発行(隔月)や林業・福祉関係者による勉強会の開催(5月～2月) <b>新規</b></li> <li>先進事例調査等による外国人参入の可能性の検討(9月～12月) <b>新規</b></li> <li>作業の負担軽減のため、ドローンの活用支援(事業者とドローン取扱店とのマッチング)やファン付き作業服の普及促進(5月～12月) <b>新規</b></li> </ol> </li> <li>地域材の利用促進                     <ol style="list-style-type: none"> <li>アカマツや広葉樹等を活用した木質化事例のハンドブックの作成(5月～10月)や木質化事例見学会の開催(11月) <b>新規</b></li> <li>商店街における店舗等の木質化の意向調査により需要を把握(5月～9月)し、木質化を支援(10月～3月) <b>新規</b></li> </ol> </li> <li>原木しいたけ産地の再生                     <ol style="list-style-type: none"> <li>原木生産に意欲的な原木コネクターによる原木の増産支援(増産分10円/本)(9月～3月)</li> <li>栽培技術勉強会や若手生産者による懇談会の開催(9月、10月) <b>新規</b></li> <li>原木しいたけフェアの開催、試食販売等の販促活動、台湾での県物産展出展による販路拡大(10月～11月) <b>拡充</b></li> </ol> </li> </ol>